

矢作川が育んだ 名所・旧跡を巡る かくれみち散策コース

標準コース
距離
3.8km

矢作川を経済・生活基盤にして栄えた高橋地区中央北部の、いにしえが偲ばれる数々の史跡・遺跡が残るコースです。古い歴史と伝統を受け継ぎながら、新しい息吹を取り込んで育まれてきたこの地域をふるさととして「ゆったり・のんびり」と歩いて下さい。

岩滝町高入

A 扶桑公園

平井・百々・扶桑・美和の お立ち寄りポイントをご紹介します



① ふっそみずべこうえん 古峯水辺公園

江戸時代から大正期に水陸交通を結び、海産物と林産物とを取り次ぐ要地として、川舟と牛馬車でにぎわう矢作川の舟着場（土場）があった場所。ここから足助、飯田や名古屋、岡崎へ物資が輸送された。また、河岸保護が目的の巨石による水制工及び玉石による低水護岸は、魚や水生生物の生息にも適しており、土木学的だけでなく自然豊かな水辺空間づくりに貴重な場所である。



② かんのおんどう 観音堂

今井家（百々町）の先祖により建立。現在も守られており「百善の観音さん」として親しまれているお堂。建立の歴史は古く、1729年の今井家5代目の「西国33関仏像88寺霊場」の建立から始まり、1799年には8代目の手で観音堂が建立された。2009年には16代目により2度目の再建を図られ今日に至っている。



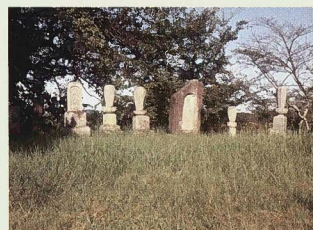
③ とうこういん 東光院

1559年1月に創建されたが、一説では徳川家康初陣の古峯坂の戦いに赴こうとして平井八幡宮に祈願した際、早朝のこと東天に太陽の光を仰ぎみて東光院と命名したとも伝えられている。門前のムクの大樹は豊田市の名木の1つとなっている。



④ せきや しそう 関屋のお地藏さん

関屋のお地藏さんは、昔はもっと矢作川の近くにあったが、長雨で矢作川が氾濫し、流されるお地藏さんを村人が背中におぶって、やっとのことで現在の場所まで運び、ひと休みしたところ二度と持ちあげることができず、ここに安置されたと伝えられている。お堂が作られて今は「関屋のお地藏さん」と呼ばれ、子どもの守り神として親しまれている。



⑤ ひらいおつかこふん 平井大塚古墳

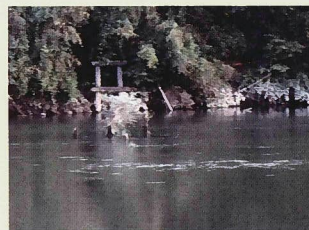
直径20m、高さ5mほどの円墳（古墳時代）。平井町内で一番高い位置の非常に眺望がよい場所にある。眼下には、平井本郷の集落と平井八幡宮の社殿が見える。かつてここには大きな松の木が5本あり、この松が遠くから眺められたものである。その規模からみて、この古墳に眠る人はかなり身分の高い人だろうと想定される。



⑥ ひらいちょうだしかくのうこ 平井町山車格納庫 (山車は、市指定文化財)

⑦ ひらいはちまんぐつ 平井八幡宮

ほむたわけのみこと たうしなかつひこのみこと おき
菅田別命・帯中津日子命、息
ながたうしひめのみこと
長足姫命を祀った平井区・百々区一円を氏子とする神社。建立は古く、明応(1492年)の頃に一度焼失したが、1612年当時に本堂が再建されたと伝えられている。祭礼は、毎年10月第1日曜日に行われ、平井町に「提灯車」・百々町に「綿あつめ」と呼ばれる山車が各1台、祭礼に合せて引かれる。祭り前日の試楽は山車に提灯の火が灯り、境内での七度まいりのあと囃子の演奏が行われる。山車は祭礼日の本楽で祭囃子に合わせて町内を引き廻される。



⑧ なが ばしあと 流れ橋跡

「流れ橋」(長さ80m、幅1.5m)は、大雨で水かさが増えると扉が開くように橋が流れ、水が引くと人力で元に戻すと言う移動式のもので、昭和30年代前半まで重宝されていた。過去数回流される度に復旧したが、伊勢湾台風で壊滅的な打撃を受け復旧は断念された。今は橋脚の一部のみ川の中や左岸に残っている。



⑨ どうとちよぼくじょう 百々貯木場(市指定文化財)

大正初期から昭和初期に材木商今井家が、矢作川を利用して上流で伐採した材木の船運・一時保管の施設として建設したもの。ここで筏にして下流に流したり製材したりしたが、鉄道・自動車運送の発達、上流のダム建設など周辺環境の変化で貯木場も廃業となった。矢作川中流域最大規模の貴重な産業遺産として1993年に史跡公園として復元された。そばには土場跡(舟着き場)が残っている。

⑩ せんぼつしゃいれいひ 戦没者慰霊碑

日清・日露・第2次世界大戦で散った地元6町の尊い慰霊(64柱)が葬られており、毎年3月に地元で合同慰霊祭が行われている。